

審 議 結 果

次の審議会等下記のとおり開催した。

審議会等の名称	第40回益田市行財政改革審議会
開催日時	令和3年11月16日（火） 15:00～16:20
開催場所	益田市役所本館3階 大会議室
出席者及び欠席者	[審議会委員] 光延忠彦委員・西村延剛委員・藤井幸子委員・澤江佑三委員・秋吉卓也委員 松本満委員・戸佐間恵子委員・澄川裕美子委員・田中文仁委員 [事務局] 政策企画局長 島田博、政策企画課長 志田原渉 行革推進室長 岩井加恵、主任 野坂洋佑 ○欠席者 清寺一輝委員
議題	（1）「益田市行財政改革取組方針」に基づく取組状況について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	なし
問合せ先	政策企画局政策企画課行革推進室 電話：0856-31-0121

審議経過

1. 委員の選任について
任期途中の委員交替により、初参加となる委員等の紹介。
2. 議題
（1） 「益田市行財政改革取組方針」に基づく取組状況について 資料1
取組方針に掲げる4項目（1業務効率化・適正化、2ICT化、3財政健全化、4市民参画・官民連携）について、資料1に基づき上半期の取組状況を報告し、ご意見をいただく。 （いただいたご意見とその回答の概要は次のとおり。） 【1業務効率化・適正化】 ➤ 業務改善活動発表会「3Qグランプリ」は、審査委員として参加したが、提案内容が不十分なものもあり、外部からの意見を言う場があってもよいのではと感じた。 ➤ 職員の発表はこれから回を重ねるごとに良くなっていくと思う。今後に期待したい。 ➤ 民間企業では、外部の専門家の支援を受けながら10数年以上業務として改善活動を行っており、定着している。 ◆ 職員の取組は十分ではない点もある。全庁的な取組になるよう引き続き働きかけを行っていく。また、発表会では出席委員の皆様にもご意見をいただけるような今後設定する。さらに、民間企業の取組を参考にして活性化させていく。

【2 ICT化】

- ICT化について、電子決裁など民間企業では10年以上前から取り組んでいる。
- トライアル実施は良いが、実装に向けて検討も必要。期限を決めて進めてほしい。
- 銀行の手続きはスマホで完結しとても便利だと実感した。市も参考にしてほしい。
- ICT化は職員の削減に繋がるのが懸念される。
 - ◆ ICT活用により省力化を図り、その分、職員でなくてはできない仕事に注力し、市民サービスを向上させることが本来の狙いである。人員削減の手段ではないことを職員にも伝えている。

【3 財政健全化】

- 公共施設の老朽化や耐震化の状況を踏まえると、早急に対応していく必要があると感じる。補助金の見直し等で生まれた余剰財源を市民の安心安全のために有効活用してほしい。
- 補助金の見直しについて、アウトカムを意識した目標設定をするということだが、申請において変更となる点があるか。
- 地域づくりに関する補助金について、市内全地区が自治組織を立ち上げたが、積極的に活動を行っているところとそうでないところに補助金の差を設けるべきではないか。
 - ◆ 補助金の見直しに当たっての評価は、今後に生かすよう指示がなされたというものであり、申請手続が変更になったというものはない。
 - ◆ 地域づくりに関しては、雲南市の取組を参考にして分析シートを活用した各地区の評価を行うことを検討している。分析シートにより得意分野と支援が必要な分野を明らかにして、財政支援が必要であれば手立てをしていくというもの。

【4 市民参画・官民連携、情報発信強化】

- デジタル化やAI導入など進める上では、合理的な組織改革も必要。
- ホームページの刷新について、AIチャットボットなどにより、見つけやすく、探しやすいものにする必要も必要。
- デジタル化を進める上では、職員側の効率化だけでなく、市民の利便性向上を考えることが必要。市民の意見を聞きながら進めてほしい。
- 何のためにやるのか、目的を明確にして進めてほしい。考えることをするかしないかだ。

4 その他

◇次回審議会開催予定日

- 今後の進め方について、年1回開催予定としていたが、年2回としたい。半期ごとに取組状況を報告し、いただいたご意見を次半期に反映させたい。
- 次回開催予定は令和4年4月。
- 現委員の任期が令和4年2月28日までとなる。継続就任をお願いしたい。改めてお願いのご連絡をする。

以上